

一 語彙・文法

問一 ① ウ ② イ ③ ア ④ ウ

問二 ① エ ② イ ③ ア ④ イ

問三 ア・カ・ク・コ

☆ アは、「目につくのは」という主語に対応する述語がありません。

カは、「多くのキラキラと星が光っている」の修飾・被修飾の関係がおかしいです。「多くの」は「星が」を、「キラキラと」が「光っている」を修飾していると考えられます。その場合「多くの星がキラキラと光っている」とすべきです。

クは、「この後」と未来のことを言っているのに「持っていきました」と過去のことを述べている点が不自然です。

コは、副詞「たとえ」を使うならば「たとえくても」とすべきです。しかし、問題文は「たとえくなら」となっています。この場合、「もしくなら」とすべきです

皆さんは、幼少期からいつの間にか日本語を話せていて、いつの間にか理解できるようになっていたと思います。そのため、文の不自然さを判断するのは難しいものではありません。しかし、そのままだと、自分で書いた文章が自然かどうかの判断ができません。自分で自分の文章を添削できるようにするために、前述したような文法事項に気を付けながら、文の読み書きを行わなければなりません。Classi でもいいので、自分の書いたものを見直したり、他の人が書いたものを比べたりするなどして、添削する癖を付けましょう。

二 手紙文

問一 ① 以(頼) ↓ 依(頼)

② 申し上げます ↓ 申します

③ その結

☆ 文章を細かく読む訓練です。自分で自分の文章に間違いがないかを添削するために、必要な作業です。

①は、よく間違いやすい漢字なので気を付けましょう。

②は、単に自分の名前を伝える場合は「申します」が適切です。「申し上げます」と「申します」は、ともに「言う」の謙譲語です。謙譲語は、自分の動作や状態に対してへりくだり、相手を立てる表現です。「差し上げる／お届けする」などがあります。しかし、「申し上げる／申す」には使い分けがあります。まず、「申し上げます」は謙譲語Ⅰに分類され、自分側から相手側又は第三者に向かう行為・ものごとなどについて、その向かう先の人物を立てて述べる表現です。例えば、次のようになります。

〔例〕 (1) (取引先の部長に対して) 先日、私が御社の社長に申し上げた通り…

※この例で、話している相手ではなく、「言う」の向かう先波線部の人物に敬意を示している。

一方、「申します」は謙譲語Ⅱに分類され、自分側の行為・ものごとなどを、話や文章の相手に対して丁寧に述べる表現です。例えば、次のようになります。

〔例〕 (2) (取引先の部長に対して) 私は、田中と申します。

(3) (先生^{せんせい}に対して) 金曜日^{きんようび}は来れないと父^{ちち}が申^{まを}していました。

※(2)の場合、話し相手である部長^{ぶちょう}に対してへりくだった言い方になる。また、(3)の父は家族なので自分側に属する。父の「金曜日には来れない」という言葉は、本来は話し手に向けられたものである。しかし、ここでは話し相手の「先生」を立てている。

敬語の種類については、文化庁が発行している「敬語の指針」に詳しくまとめられています。苦手な人は確認しておきましょう。

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/sokai/sokai_6/42/pdf/shiryo_2.pdf)

③について、「そちらの施設で上演するのがもったいない」と言うと、「本当はあなた達のような取るに足らない人たちではなく、もっと理解力のある人たちに見てもらいたい」というような意味になり、非常に失礼になります。

問二 敬具(もしくは「敬白」)

問三 (例) 昨年は、私たちが皆様の前で劇を演じるだけでした。しかし、上演後、実際に人形を触って見たかったという話をお聞きしました。そこで、今年是指人形を体験する時間を取り入りたいと思っています。

☆ 一文でどれだけでも長く書けるというのは、日本語の特徴でもあります。それだと読み手にとって分かりにくくなります。それを解決するためには、いくつかの文に分けましょう。ここでは、「〜が」や「〜ので」という接続詞に注目しましょう。これらは、それぞれ「しかし」「そこで／そのため」という接続詞に変換できます。このようにして、長い一文を複数に分けていきます。「そこで」ではなく「なので」を使っている人が多く見られましたが、これは話し言葉なので書き言葉では文頭で使ってはいけません。文字(書き言葉)で伝える場合は、「そのため」や「だから」を代わりに使しましょう。

三 漢字

問一 ① 偽善 ② 傑作 ③ 補佐 ④ 俊敏 ⑤ 推薦
⑥ 侮って ⑦ 催促 ⑧ 伴奏 ⑨ 凝る ⑩ 偏る

問二 ① しき ② きゅうだん ③ こんせつ ④ つつし ⑤ きよそ
⑥ つくろ ⑦ すた ⑧ こと ⑨ まかな ⑩ いちじる

☆ 漢字は、普段から文章で使って(手書きが良い)覚えるのが最も効率の良い覚え方です。